

# 科学教育研究協議会東京支部 2022 年度の活動報告

## 1. 東京支部の研究

科教協東京支部は、例年年3回の研究集会と支部運営委員会での学習を積み重ねながら、現行の教育課程の中で何が不十分か明確にし、それらをどのように作りかえていくか学習を積み重ねながら研究・運動をすすめてきましたが、2022年度もCOVID-19拡大の影響から通常の研究集会や運営委員会の開催を断念せざるを得ませんでした。

また、小学校低学年に生活科が導入され約30年経ち、小学校低学年でその後の自然科学教育を見通した実践や、低学年という発達段階で行うことが望ましい自然体験を行うことができない状況が続いています。その結果、小学校中高学年・中学・高校にしわ寄せが来て教育課程は汲々としています。このようななかで、自然科学の基礎的な内容を明らかにして広めていくという東京支部の研究・運動がますます求められています。

## 2. 支部主催の研究活動

東京支部の春・秋の研究集会は講師が初心者に教えるような「入門講座」としてではなく、参加者も一緒に学びあい、教育実践をつくり出すことを大切にしてきました。

COVID-19拡大の影響の中でもリモートによる活動を模索してきました。こうした動きをさらに進め、参加者とサークルとを結ぶために、メールを送ったり、HP・メールニュースや支部ニュースなどでサークル活動の様子や研究の内容がより広い人に届くように工夫してきました。

### (1) 春の研究集会

春の研究集会は会場が確保できないことや感染の拡大が治まらないこともあり、4月10日（日）と17日（日）の2日間、10分科会を設定し、障害児者と自然科学教育分科会を除いてZoomを使ったリモートで行いました。45名の申し込みがありました。ただ、コロナ以前よりも人数は大きく減ってしまいました。来年度こそ対面での開催を再開したいものです。

### (2) 秋の研究集会

秋の研究集会も会場が確保できないことや感染の拡大が治まらないこともあり、10月16日（日）と23日（日）の2日間、10分科会を設定し、障害児者と自然科学教育分科会を除いてZoomを使ったリモートで行いました。61名の申し込みがありました。

### (3) 冬の研究集会

冬の研究集会も例年通りの運営は難しいと判断し、2月19日（日）にZoomによる講演会を開催しました。メールニュースを通じて講演の演目や講演者の希望調査を行い、工藤与志文さん（東北大学）に「科学的な概念を形成するにはどのような学習が有効か」と題した講演をお願いしました。24名の申し込みがありました。講演は大変好評で、講演後の質疑応答も大いに盛り上がりました。

#### (4) 全国研究集会と関東甲信越ブロックに向けての取り組み

8月に行われる予定だった岡山大会ですが、直前に対面での開催が中止となりました。しかし、その後分科会ごとにオンラインでの分科会が開催されました。東京支部からも多くのレポートが提案されました。

11月20日(日)にオンラインで行われた関東甲信越ブロック神奈川大会の運営に東京支部からも参加し、東京から講演者と5本のレポートで大会に貢献しました。

### 3. 東京のサークル

学校現場が年々多忙化しています。自主的で創造的な実践に取り組むことがますます困難になっている中で、各サークルは今年も工夫して活動を続け、支部活動を支えてきました。

徐々にではありますが、対面の例会を再開したり、対面とリモートとのハイブリッド例会を行うなど、各サークルで様々な工夫がなされています。また、コロナ化で自粛を余儀なくされたフィールドワークを再開したサークルもありました。

会員が大学の非常勤講師を勤める例が増えてきたこともあり、サークルや研究集会に学生の姿が見られるようになりました。

このように、今年も各サークルは工夫して活動してきましたが、参加者がなかなか続けて参加できないという声もよく聞きます。特に中学、高校の若い教員のサークル定着率の低さは大きな課題です。サークル活動の強化のために、より広い層から参加者を増やしつつ、続かない理由を分析するなど、継続的に参加する仲間を増やすことが求められています。

### 4. 情報の収集と発信

#### (1) 支部ニュースの発行・メールニュースの配信

当初の発行予定を柔軟に変更しつつ、方針どおり年間4回の季刊発行ができました。

支部ニュースには研究集会の感想や投稿原稿のほか、サークルで行われた『理科教室』を読んで」の原稿や、研究集会の案内、各サークルの活動の様子など情報の発信に努めました。

研究集会のたびに確実に読者が増えています。これまで以上にサークル例会や研究集会の案内や報告などを充実させる意味が増しています。

#### (2) HPの充実

2021年夏に支部HPを全面的にリニューアルして以降、毎回の研究集会の感想を掲載したり、各サークルの連絡先がわかるように工夫しています。

### 5. そのほかの支部活動

#### (1) 東京支部運営委員会の活動

年間3回の支部運営委員会を開催(2回はリモート、1回は対面)し、研究集会に向けての話し合いや準備の検討などを行いました。

今後は事務局の強化とともに、運営委員会の強化も大きな課題です。

## (2) 新学習指導要領に関する学習

運営委員会の学習会や研究集会、各サークルの報告の中で新しい学習指導要領や教科書、都立高校の入試問題などを検討し、それを乗り越えるプランや実践を提案し議論しました。

## (3) その他の活動

事務局内の ML を活用し情報の共有を行い、事務局会議はすべて Zoom を利用して行いました。

例年行っていた支部総会は 5 月 22 日（日）に、以下の日程で事務局会議をそれぞれ Zoom で行い支部運営のための話し合いを行いました。

2023 年度も今までの成果を活かしながら、厳しい職場環境の中でがんばっている仲間を元気づけられるような研究・運動を進めます。